

## 2023年9月実績概要（メモ）

（2023.10.19）

誘導品の生産は、定修規模の差から一部で増産品目も見られるが、総じては調整局面が継続。

## 1. 生産動向

イ) エチレン 432,100トン

前月比 ▲7.6% (▲35,600トン)

前年同月比 +6.8% (+27,500トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2 %	—
定修要因等	▲ 6.0 %	+ 8.5 %
能力増減	—	+ 0.4 %
稼働率変動	+ 1.6 %	▲ 2.1 %
生産増減率	▲ 7.6 %	+ 6.8 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月80.3%\* → 当月81.6% ← 前年同月83.1%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数減と稼働率要因等から、LDPE、HDPE、塩ビモノマー、EG、AN、SBR、トルエン、キシレンなどの13品目がマイナスとなった。PS、MMAモノマー、BRなどの4品目は定修規模差等からプラスとなった。

前年比は、稼働率要因等から、LDPE、HDPE、PP、MMAモノマー、EO、EG、AN、SBR、BR、トルエンなどの12品目がマイナス。PS、SMなどの5品目はプラスとなった。

## 2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数減とともに、LDPEは主に定修規模差、HDPEは稼働率要因からマイナスとなった。

PPは微増、PSは主に定修規模差からプラスとなった。

前年比は、稼働率要因等からLDPE、HDPE、PPはマイナス。PSは定修規模差からプラスとなった。

ロ) 国内出荷

消費動向としては、物価やサービス業での価格上昇により、これまで、持ち直しの動きが続いてきたが鈍化しつつある。一方、国内の生産活動は、直近の鉱工業生産指数は2か月連続して前期を下回ったものの、マインド面では改善の傾向が強まりつつある。

汎用樹脂の出荷は、夏季休暇があった前月に対してユーザー側の稼働日数増もあり、LDPE、HDPE、PP、PSとも二桁台のプラスとなった。

前年比では、PPが前月に続いてプラスとなったほか、当月はHDPEも前年比プラスとなった。

分野別の出荷動向では、フィルム等の包材関係は、4樹脂ともに前年を下回る状況が続いているが、LDPEの射出成形分野や、HDPEの中空成形分野等では前年を上回る出荷が見られたほか、PPは射出成形分野の出荷は個別でも総じて増加が見られている。なお、PSは包装材に加えて、電機・工業用、雑貨・産業用等の主要分野でいずれもマイナスとなった。

ハ) 輸 出

原油、ナフサ市況の一時的な急騰に伴い、樹脂製品の市況もこれに追随する動きが見られた。前月比では、LDPEはプラス。PP、PSはマイナスとなった。前年比は、LDPE、HDPEは前年の水準が低位であったこともあり、プラスとなったが、PP、PSは長らくマイナスが続いている。

ニ) 在 庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE、PPで減少し、PSはやや増加した。在庫率(季節調整済)

は、LDPE、PPは前月並み、HDPEは低下、PSは若干上昇した。在庫水準としては、LDPE、HDPEは高め、PP、PSは適正水準に近辺にある。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		8月末	9月末
LDPE	▲ 23,400	3.5	3.5
HDPE	▲ 8,800	3.8	3.4
P P	▲ 9,000	3.0	3.0
P S	+ 4,400	1.8	1.9

前月からの修正を\*で付記

以 上